

第三特務艦隊戦時日誌

第六期 自十月五日 平戸撤退

0871

十月二十一日(日曜)

所在 平戸メルボーン

神能

天候半晴風向南西 氣圧最高 97.0 最低 96.3

筑摩ノ行動

午前八時五分アラリ水道ニ達シ今十時又メルボーン港錨泊ス

友軍ノ所在

支那 自新嘉坡 航海中

春日 フリシントル

通報

當隊行動変更ニ因リ筑摩艦長宛左ノ如ク通報セム

(十月二十一日午後三時五分メルボーン)

第五番番報秘 十月十八日附大海令發令カニ要

旨敬言備任務ハ筑摩ニ處理セシメ司令官ハ手ヲ

辭升便宜歸還 スヘシ右ニツキ平戸ノ十月二十七日ニド  
 二着 足旁處 十月一日發進ノ豫定 筑摩ノ現  
 任務ヲ繼續セシメラル但シ不日 内示通 第一特務  
 艦隊ノ一艘ト交代 答ハ雲ハ十月二十日 第一特務艦  
 隊ニ編入  
 右依命通知 匹

十月二十一日 (日曜) 所在 新嘉坡  
 天候半晴 風加 北西 氣圧最高 三〇・二四 氣温最高 四六・八  
 友軍ノ所在

矢刻 至 新嘉坡 航海中  
 春日 フリントル相

0873

報告

手片行動ニ関シ左ノ如ク報告ス

海軍令部長ニ報告(十月二十日午前十時分於東京)

日敵隊第七九號手片行動ヲ次ノ如ク豫定ス十月一日シド

ニ及發十月五日夕ウスイル着敵船十月八日發十一月

二十日マニラ着敵船五。十一月二十日發十二月五日

横須賀歸着衛生状況ノ如何ニヨリテハマニラ寄港ヲ

取止香港ニ変更ス取調中

右報告ス

儀禮附通報

聯邦總督サリモローフカツン氏ヲ訪問當隊ノ行動即チ

手片本職之ヲ拜才不日本邦ニ歸還筑摩當分

現任地ニ殘留警備任務ヲ繼續セシムル件口頭通報ス

二

0874

尚告別、為洲總督 聯邦首相州首相市長陸軍省  
地方陸軍指揮官名譽領事ヲ歴訪ス何レ答訪  
ヲ謝絶セリ

敵ニ關スル情報

筑摩号艦長ヨリ報告(十月二十日午後九時東京九州ニ接受)  
口第五番電報十月二十日着十月二十日三時三十分ニ向テ發

十月十九日付夕七時總督ヨリ當地總督宛宛情報  
寫ヲ送り來リタルカ其中ニ從來ノ情報中ニ於テ  
正々ニ歩ム事項ノミニ就キ報告ス「SEADLER」自  
三時火災起リ四時砲二門不用ニ歸セリローテ  
ハ風潮琉カ航海上不利益ナル事情等ノ為メ多人  
西方航路ヲ取リ免テ、如シ艦上機砲五門十五日

0875

間堪へ得ん水アルノミニ過キス

濠洲海軍者ヨリノ通報(十月五日於ノルボーン)

當隊參謀濠洲海軍者第一課長補佐スリシガ大佐ニ會見  
見ツイシ方面作戦状況及今方面ニ關ル見解ヲ説明  
セル際聞キ來レルモノ左ノ如シ

九月二十日頃武装セルト思ル、行動怪異ノ一小火船(一掃

一煙突外形ナキ等不明) ウエマス湾(PASCOE) (南緯

十二度三分附近) 附近ニ現ル武装セル一隊ハ上陸シ附近

勞働者ニ最近電信局ノ所在ヲ質問セリト云フ彼等

ハ外國人ニシテ英語ニ巧ナラスニヤリ方面ヨリ南下

セルモノナリト云也

0876

文書

當隊行動ノ変更ニ關シ覽書第三八ヲ以テ濠洲海軍  
省ニ左記要旨ノ通報ヲナシ又今寫ヲカールン島指揮官  
ニ送付ス

(覽書第三八 要旨)

本廠當地帰着ノ後筑摩ヲ當方面ニ殘留本廠  
平テ率テ本邦ニ歸還スヘキ訓令ニ接セリ

西船修理ト人員ノ交代ヲ必要トス

右訓令ニ基キ本廠平テ率テ本邦ニ向ケ奉

程筑摩ハ濠洲及新西蘭方面ニ殘留 現任務ヲ

継業ニ警戒並通商保護ニ任セシメントス

訓令ト同時ニ受領セル電報ニ依リハ筑摩ノ殘留ハ

長カラサルヘク之カ交代トシテ一巡洋艦(現心ヲ八雲ナラン)

0877

巴ニ彙洲ニ必致進ヲ命セリ

而シテ西艦當方面ヲ撥退セハニ艦ノ代リニ一艦當方面ニ在リテ現ニ印度洋ニ作動シツル全日本艦隊ノ指揮官ハ海軍中將小栗小三郎ハ麾下ニハ全艦隊、現艦隊矢刻ニミテ目下新嘉坡ヨリアリシトルニ至ル航海ノ途ニ在リ

平戸ノ行動豫定ハ別紙、如シ(本日誌ハ別紙ヲ者畧ス)

本艦當方面ニ來着以來約半歲其ノ間ニ於ケル貴省ノ厚誼ト應援ノ助力ハ能ク協同作戰ノ實ヲ堪ケ且諸事円滑ニ終始セシメタルニ感謝ス

此ノ度ニ閣下カシロフ大佐以下カシロフ島職員ヨリ多大ノ助力ヲ得先ノ事實ヲ貴省ニ通報セントス

本職本邦ニ歸還セントスルニ西艦修理完全後再

四

0878



現任地ニ來シ事ヲ希望ス又本廠ノ今次幸福ナリニ  
 協同作戦及濠洲海軍ノ好感情及鄭重ナル斡旋ニ  
 就キ本邦ニ報告スヘシ  
 終ニ臨ミ本廠當方面ノ作動ハ徒再ニアラスミテ独逸  
 探奪船ヲアドラ山ノ當方面近海ノ荒掠ヲ免カレシメ  
 ヲ傾フ蓋シ全船々長ルツク子ル伯ノ陳述ニヨルモ濠  
 洲近海荒掠ハ彼ノ意圖ナリシト云元我艦隊ノ現存ハ  
 彼ノ接近ヲ断念セシムルニ至リシト明ラカナルナリ  
 貴者並當隊間ノ種々協定事項ハ九テ知辱シテ  
 継業スヘキハ勿論全艦交代艦毛之ヲ継業セシム  
 多ク重ネテ濠洲海軍鄭重ナル尊意ヲ謝シ併而  
 衷心各員ノ武功ト又發展ヲ祈ル

0879

出入船舶

英國陸軍運送船、<sup>地</sup>戦時ヨリ歸還ノ傷病兵  
約六百名ヲ載セ入港一部陸上ニ送リ名後出港ス  
該傷病兵ニ對シテハ千代軍醫長ヲシテ慰問セシム  
其他英商船ニ隻入港

十月三日(火曜)所在 延野 <sup>ソルボーン</sup> <sup>ミドリ</sup>  
天候 雨 風 加 南 味 氣 在 最 晴 <sup>五</sup> 氣 壹 最 晴 <sup>五</sup>  
筑摩、行動

午前八時又メア出港 <sup>ミドリ</sup>ニ向テ原速十二ノ即  
友軍ノ所在

矢野 <sup>自</sup> <sup>新</sup> <sup>嘉</sup> <sup>坡</sup> 航 海 中

春日 フリミートル 旬

通報

マニラ 衛生状況ニ関スル 回電 (十月二十日照電ニ對スルモノ)

馬尼刺領事ヨリ 回電 (十月二十日午前八時於花ホーシ)

マニラ 虎列刺八月四、九十月十三ニ痘瘡トシ九月一日ヨリ十月十八日迄腸室杖私ハ麻疹四〇赤痢四〇

マニラ 月十八日迄腸室杖私ハ麻疹四〇赤痢四〇

マニラ 月十八日迄腸室杖私ハ麻疹四〇赤痢四〇

馬尼刺以外他島ハ若干ハ痘瘡アリ

交渉

右馬尼刺領事ヨリ 回電ニ接シ今地衛生状況良好

好ナルヲ確メタルヲ以テ之ノ如ク交渉ス

海軍次官ニ復報 (十月二十日午後四時於花ホーシ)

馬尼刺衛生状況良好ニ半前復報是通リ今地

0881

ニ寄卷ニタシ今官憲ニ通知方及五。噸載炭ノ件

可然取計ニタシ

當隊ノ行動ニ関シ通報

シテリントシ海軍先任官ニ通報(尙早昔午後四時於スルホーン)

日本廠平戸ヲ率テ本邦ニ歸還スルキ訓令ヲ受ケタリ

筑摩ハ當方當方面ニ殘留シテ交代スルキ他ノ巡洋

艦來着スル迄現任務ヲ繼續セシム

平戸筑摩ノ兩艦修理ヲ必要トス本廠十月三日

メルボーンヲ十月一日シドニーヲ出港十月五日本邦

歸着ノ豫定

貴官ノ厚意アル協同作戦ニ對シ深ク感謝ノ意

ヲ表スルト同時ニ貴官ノ及發展ヲ祈ル

本件新田副統督ニ通報スル

大 尾

0882

(備考) 本通報ニ對シ十月二十四日 謝意ヲ求ムルニ回

霞接受

出入船名

英商船 "COAL BURN" 及英運送船一隻入港

令右 "PERTH" "HUBART" 濠洲商船 "ALBANY"

出港

十月二十四日(水曜)

所在 新嘉坡

時間 午後

補給

天候晴 風向 南東 南

氣圧 最高 1015

氣温 最高 26

友軍ノ所在

支那

至白 新嘉坡

航海中

春日

フリミントル 泊

0883

當隊ノ行動ニ關スル通報

フィジー總督ニ通報 (十月二十四日午前十時正ニ付テ)

日本艦隊手元ヲ率テ修理ノ為メ本邦ニ歸還スヘキ訓令

ヲ受ケタリ 筑摩ハ當方面ニ殘留現任務ヲ繼續セシム

本隊十月一日シドニー出發十二月五日日本ニ歸着豫定

此機ヲ利用シ我カ協同作戰中閣下ノ與ヘラレ先聲ヲ

意ト目下スバノイシ山病院入院中ノ中聲方對シテ

御同情ヲ蒙ラ感心謝ス

尚右行動ニ關スル件ヲ豫洲海軍兵團學校長ニ通報

シ併テ從來ノ厚意ヲ謝ス

(備考) 右何シテ十月十五日謝電ニ接ス

七

0884

馬尼刺石炭價格之關係件

清水總領事ヨリ通報(十月三日午後二時五分於(11:00))

可在馬尼刺領事ヨリ回答要旨左ニ

衛生狀態ハ司令官ノ電問ニ回答済 石炭ハ三井ヨリ納炭セシメ得ヘク價格ハ平均四五円由ナリ

出入船名

英陸軍送送船「ソナ」巨戦地ヨリ歸還ノ傷病兵約六百

名ヲ載セ入港一部陸上ニ送リタル後出港ス

右傷病兵ニ對シテハ平戸軍醫長ヲシテ慰問セシム

英商飛「KATOMBRA」外一隻

英商飛四隻出港

0885

行動

十月十五日(木曜)所在航路  
メロホーシ 三ノト  
敬告

天候晴 風向南東 氣圧最低三二・四  
氣温最低二四・〇

旗船正午位置 緯緯二四度四分二秒  
經緯一四四度四分三〇秒

本職平戸ヲ率申午前九時メルホーシ出港  
三ノトニ向フ

原乗十四節出港之際シ水先人乗船午後更時五分

ホトフリーガ湾口ヲ出テ水先人ヲ退船セシメ南下ハス

海峡通峡指定航路ニ入ル午後十時半ニエカロフ南方ヲ

航過シ來航ス

出港後湾外ニ於テ英國商船"MYANDRA" "LEUKA"ノ

二隻ニ遭遇ス

友陣ノ所在

文相 至白瀬海 航海中

0886



春日 フリントル相

情報

海情報 第五九號

(海軍次官ヨリ本城(死)ニ  
五月五日午前八時於メルリノ接受)

在英大使館附武官ヨリ來電

英國海軍直報最近一中立國ニ於テ独探ヲ所持セルニ

種類ノ爆發器ヲ及發見セリ本器ハ艦船火藥庫ヲ

爆發シ以テ船体破壊ヲ誘致スル目的ニ使用スルモノ也

第一ノテトビ此四右斤合長サ十吋巾六吋深サ四吋四

角形亜鉛製箱ヨリ成リ該爆藥中心ニ銅製シ

得ル時計装置アリ

第二ニ及發火用トシテ長サ八吋右至紙製筒筒中

ニ固形物HERNITE入レシニ發火子及換栓

附換栓第一ノモノト同ニ時計装置ヲ挿入スル為

0887

ナルカ如也

平テノ行動豫定変更ノ件

昨日馬尼刺領事ヨリノ回電ニ依ルニ今地石炭一噸約四十  
四五圓ニテ其ノ價格サシカニ比シ四乃至五倍ニテ其外  
ニ付馬尼刺産炭ヲ取止メサシカニ於テ補炭スルヲ有  
利ト認メ平テハ本曜馬ヨリサシカニニ寄港スルコトニ  
豫定ヲ変更シテ如ク報告ス

海軍大臣 報告 (十月二十五日午前八時於マニ刺)

馬尼刺領事ヨリノ通報ニ依ルニ今地石炭一噸約四  
五圓ニテ其外ニ付前度馬尼刺ニ於ケン平テノ産  
炭ヲ取止メサシカニニ補炭視察ノ爲馬尼刺ニ  
寄港ノ上帰還セントス 行動豫定ヲ次ノ如ク改ム  
十月二十日サシカニ着 載炭約七。噸 二十三日發

九

二十六日 マニラ着 三十日發 十二月七日横須賀

歸着

右報告以

文書

十月辛酉 總覽書第三八二對元濠洲海軍省ノ回答

賞懐書第八受領閣下將來ノ行動及日本艦

隊配備ノ変更並濠洲方面ニ於テ之カ統率ヨ閣下

料了業 濠洲海面ニ於テ貴航路ニ於テ諸件凡テ

準備セシテ本省ハ閣下カ儘方面ヲ去ルヲ最モ

遺憾トス而シテ閣下カ書中ニ示サレタル鄭重ナル感

措ハ本省ノ奇ニク言ハント欲セシ所ニシテ爰ニ深甚ク

厚意ヲ及復ス

又別為大佐ニ對スル閣下ノ好意ハ之ヲ令官ニ傳ヘス

0889

最近ノ作戦ニ於テ閣下濠洲海軍省ニ對シ即座ニ  
與ヘラレテ出動ノ承諾及協同作戰ハ其ノ價値頗  
著ナルモノナリキ尚本省ハ閣下ノ威武堂々トシテ日本  
ニ歸還セシ閣下之費部下ノ至大ノ勤勞ニ對シ愉  
快ナル休養ヲ得テニストシテ希望ス  
終リニ臨ミ海軍軍事一般ニ閣下ノ閣下ノ與ヘラレ  
テ先尊意ト助言トニ對シ茲ニ再ヒ感謝ヲ呈ネテ  
閣下ノ御成功ト武勳ノ赫々ト先ヲ祈リテ已ス云々

出入船舶

英商船 "MARRATHA" 入港

海軍省

十月二十六日(金曜) 所在 予テメルボーンシトニ  
天候 晴 風 加北味 氣圧 最高 三〇・九 最低 三〇・五 氣温 最高 五・六 最低 五・二  
旗 正午位置 南緯 三度 二分 西經 四九度 五十分 瑞 荒

行動

午前八時半 デール島 (DEAL ID) = 連シバス海峡横

断 加ボ島ニ向フ午前七時半五分 速度十五節 = 増加ス

本日 航海中 英商船 "MOLLAR" "ODMA" "AENEAS"

其ノ他ニ隻ニ遭遇ス

友軍ノ所在

矢野 フリシトル着 (十月二十七日通報接受)

春日 フリシトル着

合算

0891

筑摩飛長ニ電報訓令(十月十六日午後二時四十分)

明十月二十七日午前七時シドニー湾ロイニーサウヘットノ

東イ南五里附近ニ於テ當隊ニ合スヘシ

十月二十七日(土曜)所在平戸メアシドニー

天候半晴風向北北東北北東氣圧最高三〇・〇最低二九・三氣温最高二七・四最低二二・〇

行動

午前七時五十分シドニー港外ニ於テヌメアヲ經テスバヨリ帰到セル

筑摩ヲ合シ原建十三節ニ減シ編隊自港入港午前九時

筑摩ハ海軍錨地第二浮標平戸ハ今第一浮標ニ

繫留ヲ了ス

シドニー在右船舶左如シ

一。

0892

濠洲軍艦 カイケフアントム カエミダ

(備考) カイケフアントムハ何カ新嘉坡ヨリ帰着目下修繕中

濠洲船 "INDARRA" "DILKERA"

英國商船 片六。三号

日本商船 丹後丸

諸威商船 "TYSLA"

支隊ノ所在

支隊ノ者日 フリントム有

合議

一 當隊日令第三號 當隊砲台中作業ニ関スル件 (現業)

二 當隊日令第三號 十月一日以降五日上旬迄至行勤豫定 (リ)

0893

第三特務艦隊日令第二〇號

大正六年十月十七日  
於訓三旗艦平戸

第三特務艦隊司令官山路一善

- 一、平戸ハ本職之ヲ率<sub>井</sub>來ル十一月一日午後一時
- 當港發日令第二一號豫定<sub>表</sub>如ク行動ス
- 二、筑摩ハ別ニ與<sub>フル</sub>訓令ニ據<sub>リ</sub>行動スヘシ
- 三、當港ニ於ケル燃料補充日割左ノ如シ

月日	曜	平戸	筑摩
一〇、二七	土	石炭(六〇〇)	重油(五〇)
一〇、二九	月		石炭(六〇〇)
一〇、三〇	火		重油(五〇)

四、當港在泊中下士卒ニ對シ各自一回四時間以内ノ陸上散步ヲ許可ス

(終)

0894



第三特務艦隊日令第二一號 大正六年十月二十七日

第三特務艦隊司令官山路一善

十一月一日以降十二月上旬ニ至ル本隊平戸ノ行動ヲ別表ノ如ク豫定ス

(終)

0895

第三特務艦隊日令第二号別表

第三特務艦隊平戸行動豫定表

日	月	日	曜	行	動	記	事
第一	一	一	木	シドニー	發		午後一時發(永先案内乗艦)
第二	一	二	金				
第三	一	三	土				
第四	一	四	日				
第五	一	五	月				
第六	一	六	火				
第七	一	七	水				
第八	一	八	木				
第九	一	九	金				
第一〇	一	一〇	土				
第一一	一	一一	日				
第一二	一	一二	月				
第一三	一	一三	火				
第一四	一	一四	水				
第一五	一	一五	木				
第一六	一	一六	金				
第一七	一	一七	土				
第一八	一	一八	日				
第一九	一	一九	月				
第二〇	一	二〇	火				
第二一	一	二一	水				
第二二	一	二二	木				
第二三	一	二三	金				
第二四	一	二四	土				
第二五	一	二五	日				
第二六	一	二六	月				
第二七	一	二七	火				
第二八	一	二八	水				
第二九	一	二九	木				
第三〇	一	三〇	金				
第三一	一	三一	土				
第三二	一	三二	日				
第三三	一	三三	月				
第三四	一	三四	火				
第三五	一	三五	水				
第三六	一	三六	木				
第三七	一	三七	金				

備考

一 横須賀着  
二 タウンズウィル 意外ニ於テ自差修正(測定)ヲ行フ

航海(原速十五節)

航海(原速十五節)

マニラ發

マニラ

マニラ着

航海(原速十節)

サンダカン

サンダカン

サンダカン

航海(原速九節)

安藝丸日本ヨリマニラ着

マニバ海峡通過

バンカ海峡通過

シブツ海峡通過

載炭(七〇〇)

途中假泊二回

水先案内退艦

載炭(四〇〇)

三、筑摩ヲ當方面ニ放留現任務ヲ繼續セシムル件ニ関シ  
當隊機密第五号ノ六ヲ以テ左ノ如ク同艦長ニ訓令ス  
第三特務艦隊機密第五号ノ六

牟田筑摩艦長ニ訓令 大正六年十月十七日  
於三浦海軍工廠

一、曩ニ佛帆船「ロートリス」ヲ拿捕シ九月六日モヒリアヲ

出發セシ獨逸掠奪船「シアドラ」ヲ乗員ノ大部（士官

三下士卒五十九名）ノ行衛ハ不明ナリ其ノ他南太平洋ニ

於ケル情報別紙ノ如シ

本年三月印度洋ニ機動セシ敵特設巡洋艦ノ踪跡

ハ今尚不明ナリ

二、右ニ對シモエニカウタシハ「ファイジー」群島ヲバ

又「カリスマ」ハ「ソロモ」島テユラヤヲ根據トシ

作動中

三、筑摩ハ艦隊ノ任務ヲ繼續シシドニーヲ根據ト  
シ、東岸及ニユージーランド方面ノ作戦及通商保  
護ニ任スヘシ

四、本任務ニ従事シ第一特務艦隊司令官及  
濠洲海軍官憲ト氣概ヲ通スヘシ

五、引揚ノ時期ハ持合ス但ニ不日第一特務艦隊  
ノ一艦其ノ船ト交代ノ豫定ナリ

六、本職ハ平声ヲ率升十月一日シドニーヲ發タリ  
スヰイルマニラヲ經テ十二月七日横須賀員軍  
港ニ歸着ノ豫定

第三特務艦隊司令官山路一善

第三特務飛隊被害第五ノ大別紙

南太平洋方面ノ情報

一友軍船舶ノ被害概ネ左ノ如シ

(イ) 五月二十日オークランド發サフランシスコニ直航セシ英船

ワイルド (WILLY) ノ行衛ハ今尚不明ナリ

(ロ) 七月二十日プリズベン發ラバウルニ直航セシ英船「マツガ」

(MATUNGA) ハ八月七日到着ノ豫定ナリモ八月五日以降

以降踪跡不明ナリ

九月五日以降約三週間「エンカウチ」ニ于テ東岸

沿海ヲ搜索セモ得ん所ナシ今船ハ多量ノ石油ヲ搭載

シ又ラバウル守備交代ノ陸軍將校數名乗船セリ

(ハ) 左記時日及地處ニ於テ帆船ノ難破燒損セルヲ認メ

タリ

一三

九月十日	七月十日	七月十日	七月十日	七月十日	七月十日	七月十日	七月十日	七月十日	七月十日
北八十度西三十度	新西蘭島名和道西口	カホホ島燈台南上陸	環利東南端	東緯一六八度二分	東緯一七三度二分	東緯一七三度二分	東緯一七三度二分	東緯一七三度二分	東緯一七三度二分
英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア
千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没
英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア
千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没
英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア	英船トートケニア
千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没	千分後沈没

(二) 左記時日及地度ニ於テ大型商船爆破セリ

0800

(備考) 右何宅内部爆発發見疑アルモ原因尚不明

目下調査中。

二、機雷ノ發見

(イ) カビララントロ唯災調査ノ結果其ノ原因ヲ探究スル  
 為ガボ島 (GABO I.) 附近 (豪洲東南端) 海面  
 ヲ掃海セシニ十月上旬ヨリ中旬ニ亘リ左記位置  
 ニ機雷ヲ發見セリ

概 伍 個數 託 事

ガボ島燈台ノ北東	四	緊要機雷切斷之何モ黑色ニシテ五個ノ 角ヲ有シ戰爭初期ニ於テ掃海ノ 使用セシモノニ類ス
ガボ島燈台ノ南西	一	

(ロ) 豪洲海軍省ハ引續キガボ島附近掃海中右結  
 了後スイソン印掃海ノ豫定

一三 一

0901

(ハ) 新西開官憲ハ不日ホートケングラニ爆沈位置附  
近ヲ掃海ノ豫定

三 獨探奪船シアドラシニ歸ル件

(イ) シアドラシハ昨年十二月二十日獨國ブローマーゲン  
及發太西洋ニテ汽船帆船十三隻ヲ擊沈スル後冒大日  
ケルホオン近回大西洋ニ出テ六月六日より七月三日迄  
ノ間ニ於テクリスマス島東方海面ニ於テ米國帆船三隻  
ヲシヨソシニシラシロードヲ擊沈ス其ノ乗員ヲ收容シタ  
ル後南下八月一日ソサイタイ群島モペリア入港八月二日  
至急出港ニ際シ坐礁難破セリ

(備考) 至急出港ノ原因不明ナルモ西風急激水

ニ因ルモノ、如シ

ニ第一項(イ)中クリスマス島東方海面ニ難破

0902



帆船ハヨシアドラーノ所爲ナルコト先ツ確信アリ

(ロ) シアドラーノ乗員ハ指揮官ルックネル少佐以下士官六名下士卒六十二名合計六十八名ナリ

(ハ) シアドラーノ武装ハ四吋二門、數砲二門及爆彈、拳銃小銃等ニシテ搭載艇再ハ救助艇四隻(内ニ隻ヨーク山裝備)及デシギール一隻ナリ

(ニ) 右乗員中指揮官ルックネル少佐航海長キルタイ大尉機関長クラウス及士官下士卒合計六名ハ小型救助艇ヲ遠航用ニ機装シ且機砲一門、拳銃、手擲爆彈ヲ以テ武装シ帆船ヲ拿捕シ後圖ヲ計ル目的ヲ以テ八月二十五日モピリア發クック島ヲ經テ九月十日目的地タルフィッシュ群島レバカ港外ニ進出ヤシモ連日天候不良ノ爲メ對岸

一四

0903

ワカヤ島ニ歸途中九月二十日捕老男トナリ現ニ  
新西蘭 ウォリントンニ拘禁中ナリ

(ホ) 右捕房トナリシ以外ノ乗員士官三(分隊長ニ名

ヲライス大尉及多イエス大尉軍醫長ピエツチエ)下士

卒五十九名九月五日全島ニ寄港セシ帆船「ルーライズ

ヲ拿捕シ翌九月六日出發ル後行衛不明ナリ

四、佛帆船「ルーライズ」(LUTICE)ニ關スル件

(ハ) ルーライズハソサイライ群島ニ於テ貿易用小型

佛國「クナ」ニシテ老朽甚海ニ適セス其ノ

要目左ノ如シ

噸數 一三四噸 塗色 白

二檣ニシテ前檣太ク普通ノ縱帆外大高檣アリ

前下檣ニスイライス一枚アリ

ヨロイネーボト救助艇各一隻ヲ有ス

(ロ) 乗員ハ前記ノ如ク全船ハ機砲銃、爆薬

及糧食約一ヶ月分ヲ搭載ス。四一吋ヲ搭載ス

ヤ人不明ナリ

(備考) 捕虜ヲ謂本島セシ新西開海軍先任

官ホルトムソン大佐ハ四一吋ハ全島出

發前列イナイトニテ爆破セリ指断ス

(終)

報告

カボ島沖爆雷ニ關シ左如ク報告ス

海軍大臣ニ報告（午後五時十分於シドニー）

口救急隊ノ三號七月六日爆破セシ「カバード」四艦沈

原因探究ノ為カボ島附近ヲ掃海セシ二十月中旬

全燈台ノ南方約十里全艦爆沈位置附近ニテ核

雷四個ヲ發見セリ何レモ戦争初期独逸ニテ

使用セルモノニ類スト云フ本隊モ實見セリサモ

海中ニ六ヶ月以上存在セシモノト思ハル南洋海軍ハ

次アウイリン島附近又新田蘭官憲ハクック水道

西口掃海ノ豫定也

照會

右報告ト同時ニ海軍次官ニハ雲行動豫定通知方及

一六

0906

サシタカニ 載炭支歩件 依頼ス

又書状送

當方面固係書類ヲ英海軍官憲ヲカシブリミトル在相

第一特務艦隊司令官ニ送付合時ニ左ノ如ク通報ス

本感ヨリ第一特務艦隊司令官宛(午後五時五分  
於シドール)

「筑摩支代艦行動豫定知ラサレタシ本日當方面固係

書類 シドール及ブリミトル海軍官憲ヲ經テ貴司令官ニ

送致セリ約一週間ニテ到着見込受領セハ候報ヲ

乞フ

通報

本日入港ト共ニ左武其一ノ如ク艦隊行動ヲ第一特務艦隊

ニ通報セシ即日左武其二ノ通報ニ接セリ

0907

(其ノ二) 本廠ヨリ葛特務艦隊司令宛 (前土時於シドニー)  
 『平戸ヲ率テ着筑摩ヲ合同ス本廠ハ命ニ依リ當  
 方面警備任務ヲ筑摩ニ處理セシメ平戸ヲ率テ歸  
 還ス、行動豫定十一月一日シドニー發十一月五日  
 タウタウクイン着八日發 二十日サカカ着 二十三日發 二十  
 六日ニシラ着 三十日發 十二月七日横須賀歸着筑摩  
 ニ六費司令官ト氣服ヲ通テ様訓令ヲ令船ハ  
 不日費隊ノ艦ト交代ノ旨内報アリ 過去作動ニ  
 對スル敬意ヲ謝シ健康ヲ祈ルフリシトハ在右  
 豫定日数通報ヲ乞フ』  
 (其ノ三) 第一特務艦隊司令官ニ向報 (横濱特務艦)  
 『貴艦ノ趣了業從來ノ好意ヲ謝シ尚長好ク  
 帰着アリシトヲ祈ル』

一七  
 頁

0908

本廠ハ行動ヲ不白確定スヘキヲ爲シ得ルハ十月下旬  
在ボートノ獲將來ニ對スル打合ヲナシ日本國ヨリ  
ノ訓令ヲ待テテ筑摩ノ交代ノ爲メ一船ヲ派遣セ  
トス當獲六十月一日頃近帯在ノ豫定筑摩  
行動豫定御通知有之度 十月二十七日

敵情其他ニ關スル情報

シドニーノ獲後筑摩艦長ヨリ令艦分府行動中接  
受セル諸情報ヲ提出スルト存如シ但ニ新報ナシ

一、ファイナニ總督ヨリノ通報(有十頁)

空リニトシ海軍先任官ヨリノ通報存如シ

一、独艦長ハシアドラ山乗員モペ命退出ノ事實  
ヲ知りファイナニ島ニ於ケル陳述ハ部下乗員庇護

0909

セシカ為ノ虚偽ノ申立ヲナセシト告白セリ

又シアドラ山ハ八月二日モペハニ於テ難破シ汽船ヨリ

ハ拿捕後之ヲ次汲セシメシト旨認諾セリ

二内ノ十冊半砲ハ乗員ニ依テ破壊セシタルモノ如ク

モペハ退去ノ独乗員ハ抑留為ノ瓜哇ニ向建スルモノト

思考ス

ル一テイニハ大砲小銃爆弾飲料水及一ヶ月間ノ

糧食ヲ有ス

ニフーシー統督ヨリノ通報(十月十五日)

濠洲統督ヨリノ通報ニ係ルフーシーニ於テ独捕虜力ニ

對スル空トシ海軍先任官ノ審問報告次ノ如シ

一) シアドラ山モペハニ於テ難破セシト疑ナシ

二) 二明ノ四時砲ハル一テイニ轉載セカカ如ク大船ヲ

一八

0910



拿捕セハ再ヒ之ニ轉載スヘシ但シ其ノ砲架ハルイリス  
ニテ退去以前ニ破壊セラルカ如シ

(三) 爆彈小銃ハルイリスニ轉載セタリ

(四) シアドラシハ丸船ワイルトニ圖ヲ知ル処ナシ

(五) シアドラシ海軍先任官ノ所信ニヨリシアドラシ船長

ハ太平洋ニ於テ第一ノローカシニ關シ知ル処ナシ

ニテ該捕虜ハ八月二十日モペハラ出港セルヲ以テ

ローカシノ拿捕ニ圖ヲ知ル処ナカルニ

(六) シアドラシ海軍先任官ハローカシノ乗員九月

五日以後更ニ有力ナル船舶ヲ拿捕セルヲ知レスト思

惟ス

(七) 四月ケープホルンヲ廻リタル後カラバガス島 (GALAPAG

OS) ノ南方四百哩 (西経百度半東方附近) 附近ニ至リ

尔後赤道線ヲ南北ニ航シ難破ニ至ル迄赤道  
附近ニ在リタリ

独船長ハ太平洋ニ於テ一ノ汽船ヲ認メス

三、フイジー総督ヨリ通報(十月十五日)

濠洲総督ヨリ通報左ノ如シ

モペハニ殘留セルルーティスノ乗員(独人捕虜トナリシモノ)

ハ十月十日パペエテ(PAPEETE)ニ到着セリ本件

英海軍省ニハ通報済

カリスベヒ十月十四日ロセル島(ROSSELL ID)着ノ後

チユニギ(TULAGI)ニ向フ

四、フイジト総督ヨリノ通報(十月十五日)

聯邦総督ヨリノ通報左ノ如シ

「エシカウスター」スバ着迄カニナヲ滞留セシメテ度

全艦ハ十月十七日着ノ豫定

「エニカウライ」来着セハ「カイタシガタ」ニ残存セル石炭ヲ

出来ル丈ケ全艦ニ載炭ル後「カニナ」ヨリ神炭ノコトニ

通報セ度シ「カニナ」ハ本後「プリズ」ニ結炭ノタメ

「ロモン」群島ケ「ラギ」ニ派遣ス

「カニナ」出現時日及全艦残存セル石炭量ヲ報告ス

様「エニカウライ」ニ傳ヘラレタシ残存石炭量多量ナ

ヲ要ス

五、フィジー 総督ヨリノ通報 (十月十日)

聯邦総督ヨリノ通報左如シ

汽船「バイオレット」(VIOLET) 船長ノ報告ニ依テ

「スチームヨット」"ELTIRA" ハ「アカプルコ」(ACAPULCO)

ニ於テ「レーク」用ニ載装ナルヲ測ラヌ

0913

今船人長サ九十呎ニ楯ノスクーナ山型船首有シ  
軍用專燒連力十五節

(以上九月三日加奈大艦報主任報告)

六、エニカウター山艦長ヨリノ通報(首七頁)

濠洲海軍省ヨリ接受セル英國支那飛隊司令長  
官ノ通報左ノ如シ

エニカウター山艦長ヨリノ通報ニヨリ米國海軍將官來着「エニカウター」

ナチハ十月十八日索敵ノ爲メガム島東方ニ出動

十一月三日帰港ノ上ホ尔後情況ニ異変ナケルハ

更ニエニカウター山艦長ヨリノ通報ニトス

七、フイジール艦長ヨリノ通報(十月十四日)

聯邦總督ヨリノ照電左ノ如シ

VENTURA 艦長ノ報告ニ依リ十月四日

海二〇 尾

0914

ト川島ニ於テ閃光ヲ認メタリト云フ也ニ對シ貴  
官調査ノ有無通報ヲ得度シ

文書

左ノ件筑摩船長ニ申達セム

吉原機密第一四號ニ功績調査ニ關スル件

燃料補充

平戸載炭 六四〇噸

出入船舶

濠洲砲艦ガ五例ニ依リ港口警戒ヲ為メ毎夕刻

出港早朝入港

出港 日本郵船會社定期船丹後丸本邦ニ向テ出港

英商船 "RUPARA" "MALINA" "HUNTER"

"BURRONG BAR" "NOORBAR" "TAKO"

運送船無号一隻

外二隻

濠洲商船 "COOMA" "BOMALDA"

入港、濠洲商船 "KOLONGA" 外石炭船一隻

米國スティー "SCHOME"

十月三日(日曜) 所在 新野 シドニー 補給

天候晴風加<sub>二</sub>不足<sub>一</sub> 氣圧最<sub>高</sub> 氣温最<sub>高</sub>

友軍ノ所在

矢矧、春日、フリントル珀

文書

海 二 一 軍

0916

壹隊認許豫算、出張旅費、造船並兵修理費(修  
 理材料及消耗兵器購入用)、艦警費(機内部消  
 耗兵器購入用)、水路費(水路回航購入用)、食糧  
 一部ノ筑摩ニ分配件、壹隊機密第八八号ノニヨリテ  
 海軍大臣ニ文書ヲ報告スルト同時ニ壹隊機密  
 第八八号ヲ以テ筑摩艦長ニ申進セシム

出入船舶

出港 英國運送船 無号 一隻

入港 英運送船 A一五號 英商船 "PULCAMBAR" "CDA-

CCHUS"

濠洲商船 YULGILBAR" "WOLLDBAR"

十月二十九日(月曜) 所在 平野 補給

天候晴 風力南中 氣圧最高 最低 氣温最高 最低

友軍ノ所在

矢矧 一 春日 フリミン トル 相

照會

本廠より軍務局長宛(午前十一時於シドニー)

平戸内地帰還後ニ於テ當隊及西艦ノ将来ニ関シ御

内意ヲ兼知シ得ルハ好都合ナリ内報ヲ乞フ

第三特務艦隊司令官宛(十日平戸) 本廠宛(十日平戸) 兼 西艦

本廠者日ニテメルボルニ赴キ自船ハ内地ニ於テ入渠修理

セシメ者日ハ九月中旬 豪洲 西岸 AFRICAN REEFニ

觸礁致シテ損害アリ竣工次第ハ雲ト會合ヲ待タ

二二

0918



任務カヲ継承スル考ナリ

右ノ外ニ神速交代法ナキカ故ニ不日日本邦ヨリ訓練ヲ

待テ確定ノ筈ナリ

本廠ヨリ第一特務艦隊員ニ官宛(午前十時於シドニー)

二十日午前十時附電受領交代法ノ件貴見通取

譯ヒシ人當方ニテハ好都合ナリ筑摩ハ當分當知

附近ニ在リテ行動ニ貴隊ノ行動決定ヲ待テ

之ニ適合スル如ク豫定ヲ定メトス

メルボーンニ艦渠ナシ入渠ハシドニー海軍艦渠ヲ便トス

豫メ豫洲海軍省ニ申込置カルヲ可トス

通報

機密書類ヲ發送ニ關スル件

海軍次官ヨリ通報(午前十時早分於シドニー)

英海軍第十号ヲ以テ在英丹越大使館附武官ヨリ直接  
 貴艦隊宛送付ノ ALLIED (BY) INSTRUCTION 及 OPER-  
 ATING TABLE ハ其ノ外 聯合國協同作戰中ノ我海軍  
 艦船ニ適用セシ所在英國海軍首席指揮官協議  
 ニ應ジ其使用期日ヲ定メ通知アリ度  
 右依命也  
 (備考) 二十日午左ノ如ク回電ス

CALLED BY INSTRUCTION 其他平手出港迄  
 現品未着又今日迄何等通知ニ接セス到着ノ  
 場合筑摩等ヲミテ御示ホ前リ所望セシム  
 二十日午一日 当隊機密第九一号ヲ以テ右電信  
 書處理ニ因リ舟田筑摩隊長ニ申進セシム

濠洲聯邦總督ヨリノ謝辞

當隊當方面策動ニ因リテ濠洲聯邦總督ヨリ左記要旨ノ謝辞ニ接ス

「濠洲聯邦ヲ代表シ貴隊當方面策動ニ對シ甚大ノ謝意ヲ表ス

通商保護ニ對シ貴隊ノ執リタル迅速機宜ノ諸作勳ハ實ニ日本カ文明ノ爲メニ戰ヒツル現戰爭ニ參加

セル忠誠ナル精神ヲ表明ス他ノ創證ナリ  
貴官ノ幸福ナル航海ヲ祈ル

文書

左ノ件 廢下取長ニ申送セム

第五特務艦隊機密第九〇号 當隊行動機密保持件

0921

燃料補充

筑摩 敵炭五八噸 重油七二噸 搭載

平戸 重油五三噸 搭載

出入船舶

出港 高船四隻 (國籍船名不明)

入港 英運送船無号一隻 英商船 "TAVINI" "MODERAKI"

"ARAFMAC" "MOORABOOL"

濠洲商船 "YARRA" "CHILLAGDE"

十月五日(火曜) 所在 平戸 三ノ川 補給

天候晴 風向 南一南東 氣圧 最高 最低 氣温 最高 最低

海 二 四 五

友軍ノ所在

支那一春日 フリント山

通報

一馬尼刺駐劄帝國領事ニ通報(午前九時於マドレー)

日本職ヨリ寄港ノ件未々確定セズ更ニ通報ス

何レニミテ石炭ヲ要セズ

ニ海軍次官ヨリ通報(午前八時三十分於マドレー)

ヨ答ハ雲ハ来ル三十日内地發新嘉ニ直航十月五日

着ノ豫定

サレカシ 載航方交渉ニ置ケリ

(備考) 本艦ハ十月七日照覆ニ對スル回答ナリ

出入船舶

0823

出港

英商船 "ARIMAC" "CARINA" "EDEN"

豪州商船 "YARRA" "HIONA"

蘭商船 "MOERAKI"

佛國商船 "NOUMEA"

米國帆船一隻

其他國籍船名不明モノ四隻

入港

英商船 "LEFUKA" "HUNTER"

濠州商船 "PERIOD" "BANNYONE" "HOBART"

米國商船 "SONOMA"

謝電回答

本廠方面より去るに當り昨二十九日聯邦總督ヨリ受ケ  
タル謝辭ニ對シ左ノ如ク回答ヲナス

每 二五 頁

0924

本職より聯邦統督宛（午前十時於シドニー）  
 閣下、最ニ鄭重ニ謝意受領本職は部下  
 将率ニ代ハリ吾等、最ニ愉快トシ且ツ名譽言トスル  
 當方面ノ作動中閣下ノ國民ノ好意ト轉旋トニ  
 對シ眞率ニ感謝意ヲ表ス本職ハ吾カ任務  
 カ日豪間ノ好感情ヲ更ニ層深厚ナラシムルト  
 同時ニ西人民間ノ結果ヲ更ニ密接緊密確ナラシム  
 ルニ効果アシフト切ニ希望ス  
 閣下ノ好意人深ク感佩ミテ忘ルコトナカルヘシ  
 本職ハ衷心環洲大陸諸島ノ發展ト永遠ノ  
 平和ヲ祈ル終ニ臨ミ閣下ノ幸運ト御祭展ヲ  
 祈ル

0925

十月三日(水曜) 所在 平戸 補給  
ニドニ

天候 晴風 午前不曇午後北東 氣圧 最高 最低 最高 最低

友軍 所在

矢矧 春日 フリシト 泊

通報

軍務局長ヨリ日電(午前土時半 於ニドニ)

平戸帰還後 第三特務艦隊ヲ解キ 筑摩内地

帰着迄 一時 第一特務艦隊ニ編入セシメラルコト

アルヘミト 尚 筑摩ハ 大修理 平戸ハ 小修理 施行ハ

豫定ナシ

(備考) 本電十月三日九日ノ照電ニ對スル回答ナリ

毎 二六 軍

0926



補任

筑摩主計長或野要一人戰時補給用船管需品

兵備品供給取扱主任ヲ差カ免ス

備考 本件本日佐世係経理部長之電報通報ス

主要ナル作業

天長節祝日奉祝ノ為メ午後在留邦人ヲ旗船手

ニ招待シ茶菓ヲ饗食シ又聯合相撲競技施行ス

文書(経理)

左記書類受領

官房第(白五号) 壹隊特別任務中水先案内謝礼金

及舟車馬類備償支出用元件

(備考) 本書類ハ多分第一特務艦隊ニ譲送サレタメ

送着セラルナラシ

出入船舶

出港 英運送船無号一隻

其他國籍船名不明ノ商船二隻

入港 郵船會社臨時船平神丸、長野丸

濠洲商船 "MODERAKI" "WENTCASTLE"

英商船 "TAVIANE" 入港即日出港

儀禮

天皇節祝日尤ヲ以テ午前八時 艦飾ノミヲ行フ

英海軍元之ニ倣ヒカシメ島廳及在泊英軍艦艦飾

ヲ施ス 但シ軍事行動ノ顧慮ニ依リ皇禮砲ヲ行フ

毎二七 五

0928

十一月一日(木曜)

所在

北緯

東經

三〇・三三

一〇七

天候晴風加<sup>ハ</sup>押<sup>シ</sup>波<sup>シ</sup>

氣圧最高<sup>三〇・三三</sup>

最低<sup>一〇七</sup> 氣温最高<sup>一〇九</sup>

行動

本邦帰還ノ為、午後一時平戸ヲ率<sup>テ</sup>シドニー<sup>ニ</sup>出港

タウニス<sup>ノ</sup>ウィル<sup>ニ</sup>向<sup>テ</sup>乗<sup>リ</sup>建<sup>テ</sup>上<sup>リ</sup>節<sup>ニ</sup>出<sup>テ</sup>港<sup>ニ</sup>際<sup>ニ</sup>燃料<sup>ノ</sup>現<sup>在</sup>額

ヲ如<sup>シ</sup>

石炭 九百六十噸

重油 三百六十八噸

午後一時半港外ニ出テ距岸約十哩ヲ保持シ北上ス

本日航海中英商船"NESTOR"外一隻新西蘭商船

"WODONGA" "WHANGAPE" 濠洲商船 "WODONGA"ニ

遭遇ス

出港ニ際シモレト<sup>ン</sup>岬<sup>及</sup>木曜島間ノ水先人トミテキヤ<sup>ン</sup>フ<sup>テ</sup>シ

ドーソン氏ヲ乗<sup>リ</sup>艦<sup>セ</sup>ム

友軍ノ所在

春日 フリミントル船 アルバニーニ向フ(本日通報接受)

矢矧 フリミントル右

備考 第一特務艦隊旗艦ヲ本日矢矧ヨリ春日変更旨

通報接受

令達

第三特務艦隊機密第五號ニ以テ存如ク訓令

牟田筑摩艦長ニ訓令

大正六年十月一日  
機密艦平声

一、其ノ艦現任務ニ従事中ハ事ヲ緩急ニ從ヒ濠洲海  
軍者ノ協議ニ應シ獨斷機宜行動スベシ

二、分離行動中其ノ艦ノ行動ハ本艦ニ報告スルノ外別ニ  
直接海軍大臣海軍令部長ニ報告シ又關係

各部之通報スルニ

第三特務艦隊司令官山路一善

報告並通報

當隊ノ行動其ノ他ニ關スル如ク報告並通報ス

海軍大臣ニ報告(午前十時十分於シドニー)

現任務ヲ筑摩ニ處理セシメ本廠ハ平戸ヲ率テ歸

還ノ爲メ發程ス十月五日夕ニシテウル着ノ際定筑摩

ハ當ノ方面ニ行動第一特務艦隊ノ行動ヨリ豫

定ヲ定ムル今筑摩ノ行動ハ直接全艦ヨリ報告セム

本廠歸還ニ關シ豫州聯邦統督及全海軍者

ヨリ懇辭ニ接ス然レモ國報要領存如シ

聯邦ヲ代表シ貴隊策動ニ對シ謝意ヲ表ス

通商保護ニ對シ貴隊ノ操リニ迅速機宜ナル

0931

諸作動ハ實ニ日本カ文明ノ爲ニ戦ヒツルアル  
現戰争ニ参加セシ忠誠ノ精神ヲ表明スル  
他ノ例證ナリ  
右報出ロス

第一特務艦隊司令官ニ南報 (午前十時於シドニー)

現任務ヲ筑摩等ニ處理セシメ本職ハ平戸ヲ率テ  
歸還ノ爲發程ス

十月五日タウニスツル着ノ豫定筑摩ノ行動ハ貴隊ノ  
行動ヲ待テ決定スル今全艦ノ行動ハ直接筑摩ヨリ  
通報セシム又貴隊ノ行動ハ直接同艦ニ通報アリ

濠洲海軍省ニ通報 (午前十時於シドニー)

0932

情報

十月二十五日附貴書受領 本日シドニーニ臨ミ

貴省ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スルト同時ニ

御成功ト及後<sup>飛</sup>禱

補差ノ關係上左ノ如ク平ヲ行動ヲ変更セリ

十月廿九日<sup>ス</sup>ツイン<sup>ス</sup> 十月廿日<sup>サ</sup>ニカ<sup>カ</sup>ニ着今<sup>三</sup>

日全地發<sup>十</sup>月<sup>廿</sup>六日<sup>マ</sup>ニラ着今<sup>三</sup>十日<sup>今</sup>地發

十二月七日<sup>横</sup>續<sup>賞</sup>歸<sup>着</sup>

高新嘉坡駐在武官ニハ参謀ヲミテ左ノ如ク通報セム

平<sup>本</sup>日<sup>發</sup>函<sup>後</sup>豫<sup>定</sup>通<sup>り</sup>行動<sup>ス</sup>筑<sup>警</sup>當

分<sup>當</sup>方面<sup>ニ</sup>行動<sup>ス</sup>

カボ島沖接雷之聞ニ左如ク筑摩艦長ニ通報セシム  
参謀ヨリ筑摩艦長宛（午後七時早五分就中）  
「今朝カボ島大佐ノ談ニ依リカボ島接雷已往矣  
見位置附近ニテ昨日更ニ一個ヲ發見セリト云フ者存  
存」

出入船舶

郵船會社臨時船平神丸及英運船無号ニ隻出港  
英商船「HUNTER」入港

敵機雷ノ構造ニ関スル通報

十日辛日 宮原中将ノカールン島ニ派遣シカボ島附近  
ヨリ引揚スル敵機雷ヲ見学セシメタルカ其ノ報告ニ  
基キ覽覽書第四一ヲ以テ左如クカールン島指揮官ニ

三〇

0934



平戸豫定行動上共ニ通報セム

世覽書第四一号要旨

一補給ノ關係上平戸豫定行動ヲ改定ス事左如シ

十月八日夕空ス以テ翌十月二十日廿九日着十一月

二十日廿九日廿九日廿九日廿九日廿九日廿九日廿九日

翌十月七日横須賀歸着

右東洲海軍省ニ通報済

ニカホ島附近ニ發見ノ機雷ニ關シ青島ニ戰役ノ

際掃海ニ從事セシ現筑摩合隊長中込大尉

ノ報告ニ基キ通報ス事ト左ノ如シ

合宿ノ意見ニヨリ機雷ノ全ク独逸製ナリ

但シ青島ニ於テモト多クノ差異アリ今差異

ノ度ヲ察スルハ左ノ如シ

0935

- (一) 前者(青島ニ於ケルモノ)ハ兩端截頭圓錐形ナレトモ  
後者(カボ島附近發見ノモノ)ハ半円形ナリ目前  
者ハ邊ニ大形ナリ
- (二) 前者ハ觸發用筒状電池筒ノ大サニシテ後者  
ヨリ約ニ倍大ナリ
- (三) 前者ノ深度調整裝置支金ノ大サハ前者ノモノ  
約五クナリ
- (四) 前者ノ安全裝置取付位置ハ機匣外殼ノ上  
部ニ在ルモノ後者ノ位置下方ニ在リ
- (五) 前者ノ外殼ノ厚ハ後者ヨリ遙ニ小ナリ  
右ノ外蓋異ノ候ヲ發見スルニト能ハス他ハ全ク  
青島ニ於ケルモノト同様ナリ